

「地域キャリア教育支援協議会設置促進事業」実施報告書

1. 実施主体	
本事業を受託し、協議会の核となる自治体、もしくは経済団体等名	新潟県教育委員会
2. 現状及び課題	
地域内でのキャリア教育に関する現状	<p>*地域のキャリア教育を推進するため、専門高校を中心に地域企業と学校のネットワークづくり等を展開したり、また一部の普通科高校においても地域と連携しキャリア教育を推進している。</p> <p>*「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」(県事業)を展開し、小・中・高が連携しながら、郷土への貢献意欲の醸成や自分の将来を自分で設計する力の育成を図っている。</p>
地域内でのキャリア教育に関する課題	<p>インターンシップ実施等体験型のキャリア教育は、専門高校など一部の高校にとどまり、特に普通科の高校では取り組んでいる学校が少ないため、普通科高校における体験活動をさらに促進することが重要である。しかし、普通科高校単独でインターンシップ等の受入れ企業を開拓することは難しく、地域産業界と学校・生徒との調整を図る人材が求められている。</p>
3. 委託内容に対する取組	
(1) 学校におけるキャリア教育に対する支援を目的として、地域の関係者が参画する会議体の設置及び運営	
地域の推進体制(図などを用いて地域全体の体制が分かるように示すこと)	<p>高校(普通科)</p> <p>事務局 高等学校教育課</p> <p>県経営者協 県中小企業団体中央会 高等教育コンソーシアムにいがた 県 労政雇用課</p> <p>地域キャリア教育支援協議会</p> <p>講師派遣</p> <p>コーディネーター 受入企業開拓等支援協議会運営</p> <p>インターンシップをコーディネート</p> <p>地域産業界</p> <p>新潟県キャリア教育推進会議 郷土愛を軸としたキャリア教育の推進 (県単事業、小・中・高対象)</p> <p>情報を共有</p>

	団体名	役割
協議会の構成	新潟県教育庁 高等学校教育課	委員2名(参事 コーディネーター) 高校教育段階での指示、助言、全体調整
	新潟県経営者協会	委員 経営的な意見、助言
	高等教育コンソーシアムにいがた	委員 インターンシップに関する指導助言
	新潟県中小企業団体中央会	委員 インターンシップ受入れに関する意見、助言
	新潟県教育庁 義務教育課	委員 義務教育段階での指導、助言
	新潟県産業労働観光部 労政雇用課	委員 雇用等に関する助言
目標	<p>※地域における課題解決のために、協議会の目標を設定すること</p> <p>地域産業界と連携しながら、普通科高校でのインターンシップの促進や、地域産業界の講師によるキャリアセミナー等の実施により、普通科高校のキャリア教育を推進する。</p>	
方針	<p>※目標達成に向けて、協議会の取組方針を設定すること</p> <p>事務局主導のもと、地域キャリア教育支援協議会を開催し、高校生のインターンシップ受入れを地域産業界へ働きかけ、普通科高校のインターンシップを実施、推進する。 また、協議会を通じ地域産業界の状況や雇用の状況等の情報を共有するとともに、キャリア教育を地域で一体となって推進する。 新潟県キャリア教育推進会議等を通して、小・中学校に情報を提供するとともに、インターンシップ実践報告会等への小・中学生や保護者の参加を促し、小・中・高の連携を図る。</p>	
事業の自立的かつ発展的な運営体制	<p>協議会の委員に、新潟県キャリア教育推進会議の委員を加え、義務教育段階での指導を踏まえたインターンシップの促進を図っていく。 本事業において昨年度作成した「インターンシップマニュアル」の配付・活用を通じ、さらなる普通科高校におけるインターンシップの促進を図る。 地域産業界等と連携してインターンシップ実践報告会を開催するなど、事業の継続化を図る。 「インターンシップマニュアル」については、各学校や事業所からの意見を踏まえ次年度に向けた改善を図る。</p>	
(2)学校の教育活動に対して行われる、社会人講師の派遣や企業等が作成する一定の教育コンテンツの提供などによる支援の促進		
①支援を提案する支援提供者を開拓すること		
<p>地域キャリア教育支援協議会の助言や支援のもと、コーディネーターが中心となり地域産業界における支援提供者の開拓を行った。「インターンシップマニュアル」のサマリーを企業に配布し、インターンシップへの関心や理解を深めることができた。</p>		
②支援に関する提案を学校に提示すること。		
<p>支援提供者の開拓を経て、支援対象とする学年、時期、人数等提案の詳細を一覧(データベース)にし、支援提供者の提案が効果的に学校の利用に資するよう、コーディネーターが提示方法を工夫し、詳細一覧(データベース)は学校間で共有し、インターンシップを効果的に行った。</p>		
③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。		
<p>コーディネーターには、キャリアコーディネーター経験者を充てる。コーディネーターは、学校のニーズを踏まえながら企業の提案を学校に紹介し、両者の間の連絡・調整を図った。</p>		
(3)学校の教育活動として校外で実施される職場見学、職場体験活動及びインターンシップ等に対する支援の促進		
①インターンシップ等の実施場所として児童生徒の受入れを提案する支援提供者を開拓すること。		
<p>地域キャリア教育支援協議会の助言や支援のもと、コーディネーターが中心となり地域産業界における支援提供者の開拓を行った。各学校にインターンシップマニュアルを配布し、事務手続きや生徒の事前・事後指導に役立てることができた。</p>		

②インターンシップ等に関する支援提供者の提案を学校に提示すること。

支援提供者の開拓を経て、支援対象とする学年、時期、人数等提案の詳細を一覧(データベース)にし、支援提供者の提案が効果的に学校の利用に資するよう、コーディネーターが提示方法を工夫し、学校に提示した。データベースを蓄積し、小・中・高間におけるキャリア教育推進に努めるとともに企業連携を効果的に図るよう試みた。

③個々の学校のニーズを把握し、そのニーズに応じて支援提供者による提案を紹介すること(マッチング)。

コーディネーターには、キャリアコーディネーター経験者を充てる。コーディネーターは、学校のニーズを踏まえながらインターンシップ受入れ企業やその提案を学校に紹介し、両者の間の連絡・調整を図った。

(4)その他の取組

4. 実施内容

実施時期	実施内容
7月	キャリアコーディネーター採用
7月～	地元産業界への各種支援依頼、受入れ企業等開拓 インターンシップ受入れ企業のデータベース作成
7月～8月	夏季インターンシップ実施(合計385人)
12月17日	第1回地域キャリア教育支援協議会 開催
3月	春季インターンシップ実施(合計42人)
3月23日	第2回地域キャリア教育支援協議会 開催

5. 協議会の成果と課題

※計画段階で示していた検証方法等を踏まえ、客観的・具体的に記載すること。
※成果を踏まえた今後の課題についてもあわせて記載すること。

- ①インターンシップの実施を通して、生徒が自己の生き方や進路、将来の職業等について真剣に考え、日々の学校生活や学習に対してもさらに積極的に取り組む姿勢が見ることができた。
- ②インターンシップ・マニュアルを活用しながら、インターンシップの目的や意義等について、学校と受入企業、生徒との間で共通認識を図ることができた。また、事前・事後活動の充実を図ることができた。
- ③振り返り活動などの事後指導や企業からの報告等を通じて生徒の変容を検証した。その結果、インターンシップを通じて、生徒が進路に対して自信を持ったこと、意欲的になったこと、将来の自分を考える意欲が醸成されたことが分かった。
- ④課題としては、本事業を契機として、今後は、各学校が学校独自にインターンシップを実施していくことが望まれる。そして、取組の成果を積極的に発信し、多くの学校での実践につなげていくことが重要である。
- ⑤インターンシップ・マニュアルや受入れデータ事業所のデータベースについては、より学校が活用しやすいよう改善していく必要がある。